

武庫川流域委員会 委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

基本高水の設定 複数の選択肢を立ち上げ、実りある検討を!

県当局担当者を含む河川専門家の役割と、一般住民を含む非専門家の役割

県当局がしめした計画案に沿って検討が進められている。治水のみに焦点をあてて議論が進む。当然のことのように河川専門家の意見が幅を利かす。それに対する異論が出て、県当局およびそれに同意する河川専門家による訂正コメントで済まされていく。河川専門家以外の方は傍観者にすぎないのか。

河川法が改正され「環境」と「住民」を加えた意義はどこに発現するのか。ワーキンググループが作られ作業が始まっているが、それが治水計画とどうかかわるのかが見えない。「環境」と「住民」が脱落し、自然と生活の環境を破壊してきた従来の計画作りの弊害を、いまだ引きずっているのではないかと心配する。

当初から指摘されたように、行政から自立した武庫川流域委員会としての合意形成を目指すべきだ。それを可能にする方式を考えなければならない。

武庫川流域委員会は総合的な対策を練り上げるため、河川・水系以外の分野からの委員も「住民」も参加している。その人たちの意見が反映されなければ「総合」の意味がない。意見をどしどし率直に言えるよう、環境整備をするのが県当局および河川専門家の役目だろう。県当局を含む河川専門家は出された意見に対して一つの答えのみを強調するのではなく、比較検討して議論できるように問題点を分かりやすく整理し、だれもが議論に参加できるように心をくばるべきだ。

そのためには、基本高水から計画高水まで、数個の成案を立ち上げて比較検討することが、「治水と環境」にとって実効性と実現性とがある結果を導くことになるではないか。引き伸ばし率を変えて複数の選択肢を提示することなど、議論を活性化することが必要だ。計画の策定は「選択」の問題と言える。

河川についての非専門家も積極的に発言するべきだ。従来の公共事業政策のあやまちを正すためにも、旧弊の日本的つつましさを止めて、ふるって発言するべきだ。

2005年2月23日